

## 第五回 萬國林業試驗所組合總會記事摘要

(千九百六年九月九日ヨリ同十六日ニ至ルウ井ルテンベルク國開會)

### 一、萬國林業試驗所組合加入國出席正員

- 一、バーテン、ドクトル、ヘルビツク教授、森林監督官 シーフエルト教授
- 二、バイエルン、ドクトル、マイエル教授、同 ラマン教授、及ヒ 同 シュツプ エル教授
- 三、ベルギー、森林監督官 クラハイ
- 四、丁抹、森林監理官 トクトル、ミューレル、オッペルマン教授、トクトル、ワイス教授
- 五、佛蘭西、フッフエル教授
- 六、ヘッセン、ドクトル、ウキンメナウエル教授
- 七、埃太利、林業試驗所長 フリドーリッヒ、森林管理官 ヤシカ及ヒ ドクトル、ツエデルハウエル
- 八、普國、ドクトル、アルペルト教授、ドクトル、シヨワツバツハ教授
- 九、露西亞、モロソッフ教授及ヒ 森林官 ウヤノクラドツフ
- 十、サクセン、ドクトル、フアーター教授
- 十一、瑞西、エングラ教授、森林官補 フルリー
- 十二、チューリンゲン、森林監督官教授 トクトル、マーテス
- 十三、ウングアルン、森林監督官 フオン、ナギー林業試驗所長教授 パダス
- 十四、ウ井ルテンベルク、ドクトル、ビュラー教授、森林官補 デエーテリツヒ 同 ケルン 同 マルスターレ  
ル、ワグネル教授

其他組合加入國ノ客員

組合外出席國ノ客員

十五、ブルガリア 山林局長 バックセウ

十六、北米合衆國 ムルフオールド教授

等ナリ

九月九日、スチュッツーガルト市開會第一回議事日程

腐朽土展覽會ヲ同市高等工藝學校ニ開會ス

其目的ハ腐朽土ノ種類ノ分類ヲ觀覽ニ供シ併セテ萬國林業試驗所用腐朽土分類及ヒ命名法決定ノ

材料トナスニアリ

九月十日 スチュッツーガルト市開會第二回議事日程

(一) 地水量ニ及ボス森林ノ影響調査報告ノ件

(二) 林業試驗所ノ出版ニ使用ス可キ國語ノ件

等ナリ

(一) 地水量ニ及ボス森林ノ影響調査報告ノ件

瑞西チエーリツヒ エングレル教授ハ一千九百年ノ組合總會ニヨリ指定セラレタルエムメンタールノ

試驗地ノ概況其地質的構造、地理的及氣候的關係及ヒ試驗器械并ニ其觀測方法等ニ付キ地圖、表及ヒ曲線

圖等ニ據リ詳細ニ本試驗ノ容易ナラサルヲ示シ其觀測ノ成績ヲ説明セリ

今其摘要ヲ示セハ

強雨ノ際ニ於テ無林地ノ流水量ト有林地ノモノトヲ比較スレハ前者ノ百ニ對スル後者ノ六十ノ割合トナル換言スレハ強雨ニ際シテ有林地ノ流水量ハ無林地ノモノヨリ四割モ少量ナリ且ツ強雨後ノ狀況ヲ觀測スルニ若干日間ニハ此間係ハ全然逆トナリ最後ニ乾燥時期久シク繼續スルトキハ無林地ハ全然乾涸スルモ有林地ハ尙ホ繼續シテ流水スルモノナリト

(二) 林業試驗所ノ出版ニ使用ス可キ國語ノ件

本題ハシユワッパツハ教授ノ提議ニシテ討論ノ決果左ノ決議ヲナセリ

英語(獨逸語佛蘭西語ハ最モ汎ク普及セルモノト認メ其一ヲ使用スルヲ希望ス又其他ノ國語ヲ記述セル試驗報告ハ此等三ヶ國語ノ一ツヲ以テ摘要記載センコトヲ希望ス

九月十二日 スチニツツーガルト市開會第三回議事日程

(三) 木材工藝的性質研究ノ件

(四) 腐朽土形狀記載ノ件

等ナリ

(三) 木材工藝的性質ノ研究ノ件

墺國林業試驗所員森林管理官ヤンカ氏ハ自己ノ研究報告ヲナシ次キニ左ノ二案ヲ提出セリ

(イ) 萬國林業試驗所組合ハ材木ノ更新及ヒ撫育ノ方法ハ最大材積生長ヲ目的トスルト同時ニ木材ノ性質ヲ良好ナラシムル目的ヲモ達セシモン事ヲ希望ス

(ロ) 萬國林業試驗所組合ハ共同的ニ木材工藝的性質研究ノ問題ヲ解決スルノ方法ヲ考究センコトヲ

希望ス

本件ハシユワッパツハ、マイエル、及ビユーラー諸教授等ノ討論アリテ終ニ之ヲ承認セリ

(四) 腐朽土形狀記載ノ件

本題ニ關シ腐朽土展覽會ヲ開キ其標本ニ據リ之レカ形狀ノ記載ヲ一定センコトヲ目的トシ委員ヲ撰定シ記載案ヲ提出セシムルコトニ決議シ委員會ヲ開クコト、セリ

九月十四日 ラベンスブルク市開會第四回議事日程

(五) 森林學ニ關スル圖書目錄編纂ノ件

(六) 萬國林業試驗所組合試驗報告摘要編纂ノ件

(七) 土壤ノ分析及植物灰分ノ分析ノ件

(八) 研究上及應用上ノ目的ノ爲メ森林樹木種子ノ遺傳性研究ノ件  
等ナリ

(五) 森林學ニ關スル圖書目錄編纂ノ件

本題ハ一千九百三年ノマリアブルン開會第四回萬國林業試驗所組合總會ニ於テ瑞西林業試驗所員森林官補フルリーノ提出ニ係ルモノニシテ當時本件ニ關シテベール、フルリー、ノイマイステル、クラハイ、イノ四氏委員ニ撰定セラレタリシモ委員會ヲ開クコト能ハサリシ

本件ニ付キエングレル、フルリー、ノイマイステル、ベール、フルリー等ノ討論アリテ遂ニ左ノ如ク決議シタリ  
萬國林業試驗所組合總會ハ學術上及應用上森林學ニ關スル圖書目錄編纂ノ事業ヲ必要ナリト認メ委員ヲ撰定シ次回總會迄ニ議長ニ成案ヲ提出セシムヘキコト  
之レナリ而シテ之レカ委員ニハ

ベール、フルリー、ビユーラー、クラハイ、フルリー、及ヒヲツベルマン  
ノ五名ヲ選定セリ

(六) 萬國林業試驗所組合試驗報告摘要編纂ノ件

本件ニ付キヲツベルマンノ提議アリテ當會議長教授ビユーラーニ一任シ次回總會迄ニ編纂案ヲ起草シ其案並ニ説明書ヲ回章トシテ送附シ次回會議ニ確定セシメンコトヲ希望スト決議セリ

(七) 土壤ノ分析ト植物灰分ノ分析ノ件

本案ハ今回ハ撤回シ之レヲ次回ノ問題トナスニ決議セリ

(八) 研究上及ヒ實用上ノ目的ノ爲メ森林樹木ノ種子ノ遺傳性研究ノ件

本議ハ第四回組合總會ノ際ドクトル、マイエル教授ノ提出ニ係リ當時ノ時間不足ノ爲ニ討論スル能ハス委員附託トナリシモノニシテ此委員ハチー斯拉ー、マイエル及ビノイマイステルノ三氏ナリシカ今同討論ノ結果ノイマイステルハ左案ヲ提出セリ

(イ) 實用上ノ目的ノ爲メ種子ノ檢定及ヒ調達ノ件ハ精密ナル學術的研究ノ決論ヲ得ル迄延期スルコト

(ロ) 本研究ハ組合試驗所ノ事業按中ニ採用シ種子檢定ノ際ニ遺傳性研究ノ材料ヲ蒐收シ以テ本研究ヲ補助スルコト

教授ドクトル、シュワツパツハハ本研究ハ必要ナル事業タルヲ説明シ尙ホ一例トシテエーベルスワルド林業試驗所ニ於テ種子產地ノ遺傳的性質ニ就キ(松ニ付キ)試驗セル報告ヲナシ松ノ種子ニ就キ各國林業試驗所ハ充分ノ比較研究ヲナサンコトヲ希望セリ

又瑞西林業試驗所ニ於テエングベル教授カ研究セル報告ヲナシタリト雖トモ本件ニ關スルシュワツパツハツ教授ノ提議ハ採用スル所トナラサリシモ出席十一ヶ國ノ林業試驗所ハ松ノ種子ニ關スル比較研究ヲ任意的ニ研究センコトヲ聲明セリ

九月十六日 ラベンスブルク市開會第五回議事日程

(九) 樹木ノ根ノ生長研究ノ件

(十) 腐朽土構成ニ關スル分類及ヒ命名法ノ件

(十一) 收額表ノ學術上及ヒ應用上ノ成績ノ件

等ナリ

(九) 樹木ノ根ノ生長研究ノ件

本件ハフアイナツハ森林監督官兼教授ドクトル、マーダスノ提出セルモノニシテ氏ハ一千九百三年マリアブルン開會萬國林業試驗所組合總會及一千九百六年ドレスデン開會獨乙林業試驗所組合會ニ提出セ

ルモノナリ

要ハ根ノ構造及ヒ生理學的關係ヲ共同的ニ研究センコトヲ希望シ其研究事項ヲ提出シタルモノナリ  
本問題ハ滿場一致ヲ以テ採用ニ決セリ

(十) 腐朽土構成ニ關スル分類及命名法ノ件

本件ニ付キテハ九月十二日開會ノ決議ニヨリ委員會ノ報告ヲ滿場一致ヲ以テ決議セリ

(十一) 收額表ノ學術上及實用上ノ成績ノ件

本題ニハ端西林業試驗所員森林官補フルリー氏ノ報告ニアリテ收額表調製上注意スヘキ事項ヲ述ヘタルモ本件ハ時間不足ノ爲ニ中止トシ次會ニ延期セリ  
以上ハ議事ノ主要問題タリ尙ホ最後ノ決議ハ左ノ如シ

一千九百十年ブルセル市ニ開會ノ萬國博覽會ヲ機トシ第六回本組合總會ヲブルセル市ニ開會ス  
本總會ニ關スル總テノ報告ハウキルテンベルグ林業試驗所ヨリ出版ス

二、森林視察旅行略記

九月九日

一、ハイルブローン及エーリンゲン林區ノ落葉松林及混淆落葉松林ノ生長收額試驗地視察

二、クロスホルツノ苗圃視察

九月十一日

三、オーベルンドルフ林區ノ白樺林ノ生長收額試驗地視察(代試驗地間)

九月十二日

四、シュレツハイム林區ノ唐檜林ノ生長收額試驗地視察(ASCDE間代試驗地)

九月十三日

五、ケーニツヒスブロン林區ノ山毛櫸林ノ生長收額試驗地視察（<sup>A B</sup>間伐試驗地<sup>C</sup>度）  
六、バイント林區ノ唐檜林ノ生長收額試驗地視察（<sup>植栽距離</sup>試驗地）

九月十五日

七、ウオルフエグ林區ノ山毛櫸ノ生長收額試驗地視察（<sup>植栽距離</sup>試驗地）

九月十六日

八、ワイゼナウ及テットナン林區針濶混淆林試驗地視察

以上視察旅行中

一、視察ニハ落葉松林ノ地況及林況ニ關スルコト

三、四、五、ノ視察ニハ間伐度合ノ生長ニ及ホセル影響視察ニシテ此等ノ場合ニハ間伐度合ノ相違ハ間伐木數ニハ無關係ニシテ寧ロ間伐セル幹級如何ニ關係スルコト及ヒC度ノ間伐ハ材積生長及ヒ全部ノ生長能力ヲ最大ナラシムルモノナルコトヲ知リ

六、七、ハ植栽距離及ヒ間伐生長ニ及ホセル影響視察ニシテ此等ノ場合ニハ正方形植栽ハ最も適當ナル生長ニ示シ植栽距離ハ  $\frac{1.5}{1.0}$  即チ約五尺三尺ノモノ材積生長最も多額ナルコトヲ知レリ

[illegible]



同	八月九日	同	5.01(10.1-0.6)	五六一
同	同二十一日	I	2.08(3.7-0.3)	同
同	同	II	2.2(5.1-1.6)	一五九
同	十月五日	同	5.07(4.2-0.7)	一六〇
同	同八日	I	1.37(5.4-0.1)	法三年養成 一尺二寸
同第八表	六月二十六日	III	5.64	樹周 四、九二
同	七月十四日	同	6.25(8.0-1.5)	生漆分折法
同	十月二十六日	同	5.38(9.5-2.0)	計液
同	五月二十七日	佛蘭西法	3.94	同
同	六月四日	III	0.08	同
同	八月二十六日	I	4.96(15.0-1.0)	同
同	十月三日	III	2.25(15.0-2.0)	同
一九元	同第十表項	月	一一胸高徑	同
二七	六經灣的	探期	4.94(15.0-1.0)	同
二三	六戰工	經濟的	5.25(15.0-2.0)	同
三六	一二七	周	4.6	同
三〇	一二一	殺掻法	付テハ後章ヲ見ヨ	同
三三	裏目漆	採集量	65.0	同
三二	留漆	採集量	20.0	同
三三	初塗小計	鼓搔法	60.0	同
一五〇	一五五殺掻法末	産漆量	1.245	同
	八一調合	削除	12.45	同
	二一、二四四	調合	一二四四平方寸	同